

# 次のFRB議長は誰か？

複数の選択肢がある。

(A) ジェローム・パウエル（訳注：FRB議長）は本当に自分の全発言を信じている。

(B) パウエルは自分が実直ではないと分かっている。だが、この道を進まなければ、信じられないほど悪いこと（ありふれた景気後退よりもはるかに悪いこと）が起こると思い込んでいる。

(C) パウエルは自分が実直ではないと分かっている。だが、自分の任期は残り7カ月にすぎない。ここで人間の弱さが問題となる。自分は議長職に留まりたい。そこで心の中で次のような考え方を正当化するだろう——現政権が望んでいることを忖度しなければならない。そうしなければ、ラエル・ブレイナード（訳注：FRB理事）のような、そしてブレイナードでなければニール・カシュカリ（訳注：ミネアポリス連銀総裁）のような後任者（訳注：ハト派）を指名してしまうだろう。パウエルは「おそらくブレイナードやカシュカリでは金融をさらに緩和してしまうから」と自分を納得させている。つまり、自分のデタラメが、さらに無謀な金融政策から救っているのだと。

私の推測では、ほぼ「C」である。おそらく、少しだけ「B」であろう。だが、ほとんど「C」だ。もし「A」だとしたら、私が人生をかけて学んできたことは、すべて完全に間違っていたことになる。その可能性もある。

あと7カ月でパウエルの任期が終わる。このときFRB議長を任命するのは、理論的にはジョー・バイデン大統領だ。ただし、この問題についてバイデンに助言をするのは、ジャネット・イエレン（訳注：現米財務長官の前FRB議長）である。

となれば、私は実際に決定を下すのはイエレンであるとみている。バイデンは彼女のいうとおりにするだろう。

イエレンはトランプに解雇された。表向きは2期目に再任されなかったのであり、解雇ではない。だが、実質的には解雇だった。そして、自分の後釜に座ったのがパウエルである。

ここで人間の弱さの問題に戻る。イエレンはその仕返しにパウエルを解雇したくてたまらないとみる。イエレンはパウエルが職を得るために、あの手この手で自分の背中を刺したのだと感じているだろう。

**そして、パウエルはおそらくイエレンが自分を好きではなく、しかも生殺与奪の権を持っていると分かっている。したがって、議長職に留まりたいのであれば、イエレンと現政権を喜ばせなければならず、パウエルには、さらに圧力がかかっていることになる。**

つまり、権力分立の概念から貧弱な構造になっているのだ。現在FRBは勝手に自分たちに権限を与え、物価安定を無視している。そのうえに、元FRB議長が米財務省の指揮を執っており、自分を追い出した現FRB首脳陣たちの命運を握っている。

つまり、権力分立の概念から貧弱な構造になっているのだ。現在FRBは勝手に自分たちに権限を与え、物価安定を無視している。そのうえに、元FRB議長が米財務省の指揮を執っており、自分を追い出した現FRB首脳陣たちの命運を握っている。

したがって、FRBと財務省は何らかの形で絡み合っているのだ。すでに政治化され、本来あるべきよりも独立性を失っているFRBが、さらに政治化され、財務省の延長となっている。行政府の外局となったのだ。

確かに、財務省と行政府は常にFRBを利用しようとしてきた。だが、画すべき一線があった。それが今や交差してしまっているのだ。

これはFRB理事が党派的事であることも、独立していない可能性をある程度証明しているといえる。中立ではない党派的な人物だけが大統領政権で上級職に就く傾向があるからだ。

**イエレンが今や完全にそれを認めている。イエレンがFRB議長を選んでいるのだ。**

イエレンは前議長であり、解雇されて現議長が就任した。そう考えると、イエレンは自分が人事からはっきりと蚊帳の外に置かれていると分かるようにすべきだった。ありとあらゆるところに、ありとあらゆる限りの利益相反があるからだ。

しかし、実際には、それとは逆のことが起きている。イエレンはそれを認めることさえ恐れていない。驚くべきことだ。これはどこからどうみても良い統治ではない。

他に言い方が分からないのでいわせてもらおうと、ジェリーはジャネットの尻に敷かれている。パウエルは議長に再任されるため、イエレンの望みなら何でもするだろう。FRBは財務省と合併し、今やすべてが行政府の管理下にあるのだ。

私の勝手な推測では、パウエルは自分がイエレン＝バイデンの望みを忖度して実施するだけで、75%の確率で再任されると思い込んでいるだろう。しかし、私が思うに、イエレン＝バイデンの望むことを正確に実行しても、続投の可能性は25%しかない。イエレンがパウエルを好きではないと思うからだ。

パウエルは二人を喜ばせようと懸命の努力をしている。そして、自身の信頼、ひいては連邦準備制度の信頼を損ねている。その挙句に職を失うだろう。

しかも、自分の任期後に何かしら悪いことが起これば、非難の矢面に立たされるのはパウエルである。絶体絶命だ。

したがって、個人的には、パウエルは腹をくくって、圧力をはねのけ、自身とFRBの信頼を護り、まさに昔ながらの方法で解雇されたほうがよいように思う。

出所：マーク・ファーバー博士の月刊マーケットレポート（パンローリング）

## 2022年初頭以降に本格的な通貨戦争が起こる！？

米国の弁護士、エコノミストでLTCM危機の際に処理を担当したジェームズ・リッカーズ氏が「A Global Liquidity Crisis Is Underway（進行する世界的な流動性危機）」と題するブログ記事を更新した。

その中でリッカーズ氏は2022年初頭以降、本格的な通貨戦争が起こる可能性に言及した上で、その前に、**他の主要通貨に対してドルが大幅に上昇するような市場の混乱を通過する可能性がある。その混乱が深刻になり、ドル高が米国の輸出や経済に苦痛を与えるようになると、米国はドル安に向けた措置を講じざるを得なくなるというシナリオを述べている。**

例えば、2007年から2008年の世界金融危機の余波を受けて、当時のオバマ大統領は2010年にドル安政策に着手した。ホワイトハウスと米財務省は、ドル安が欧州や日本など世界各国の経済成長に悪影響を与えることを承知していたが、他国に配慮する余裕などはなかった。むしろ世界最大の経済である米国が不況に陥った場合、それは世界の他の国々を巻き込む大不況になる可能性があったからだ。

出所：「A Global Liquidity Crisis Is Underway（進行する世界的な流動性危機）」ジェームス・リッカーズ

その政策はうまく機能した。米ドルは2011年8月に史上最低を記録しました。当然のことながら、これはゴールドが当時史上最高を記録したのと一致した。ユーロと円は急騰し、米国経済は必要な後押しを得た。その後、トランプ大統領の登場で、世界は2016年にガラリと変わるまで、ユーロ高は続いた。

では、今回はどのようなストーリー展開になるのか？通貨戦争を引き起こす基本的な条件が残っている限り（債務が多すぎて成長が不十分）、ある一つの経済または別の経済が、通貨を他の経済に対して安くすることによって成長を後押ししようとする誘因が働くため、新たな戦いが起きる可能性は常に残っている。

出所：「A Global Liquidity Crisis Is Underway（進行する世界的な流動性危機）」ジェームス・リッカーズ

ジョー・バイデンとジャネット・イエレンは、今年の秋になると、景気の低迷についてのメッセージを市場から受けとることになる。第3四半期のGDP、さらにインフレと雇用のデータがそれを明らかにするだろう。2022年の中間選挙はそこから1年以内に行われることになる。ホワイトハウスはパニックに陥り、米ドル安対策に手を出すだろう。

これが2022年にかけてドルが下落する理由である。しかし、それまでの間に、なぜドルが上昇するのか。その答えは、世界的な流動性危機が現在進行中だということだ。世界的な財政難の具体的な警告の兆候のいくつか既にある。

出所：「A Global Liquidity Crisis Is Underway（進行する世界的な流動性危機）」ジェームス・リッカーズ



**例えば、中国の中央銀行は最近、商業銀行が貸付に対して保持しなければならない準備率の要件を引き下げた。これは、中国の経済の弱さと銀行の流動性の問題を示している。**

**また、米国債の10年債利回りは、昨年3月以降、急激に低下している。これは、世界的な品質への逃避（恐怖貿易）と、景気後退の可能性と一致する将来のデスインフレと成長の鈍化への期待を示している。**

出所：「A Global Liquidity Crisis Is Underway（進行する世界的な流動性危機）」ジェームス・リッカーズ

**世界的な流動性危機がこれほど深刻になったとしても、いつこれが爆発するかを正確に言い当てることは不可能だ。しかし、これらの傾向は3月以降強くなっており、さらに圧力が高まっている。確かなことは、危機が発生した場合、世界的な安全への突進に対応してドル（およびゴールド）が上昇するということだ。**

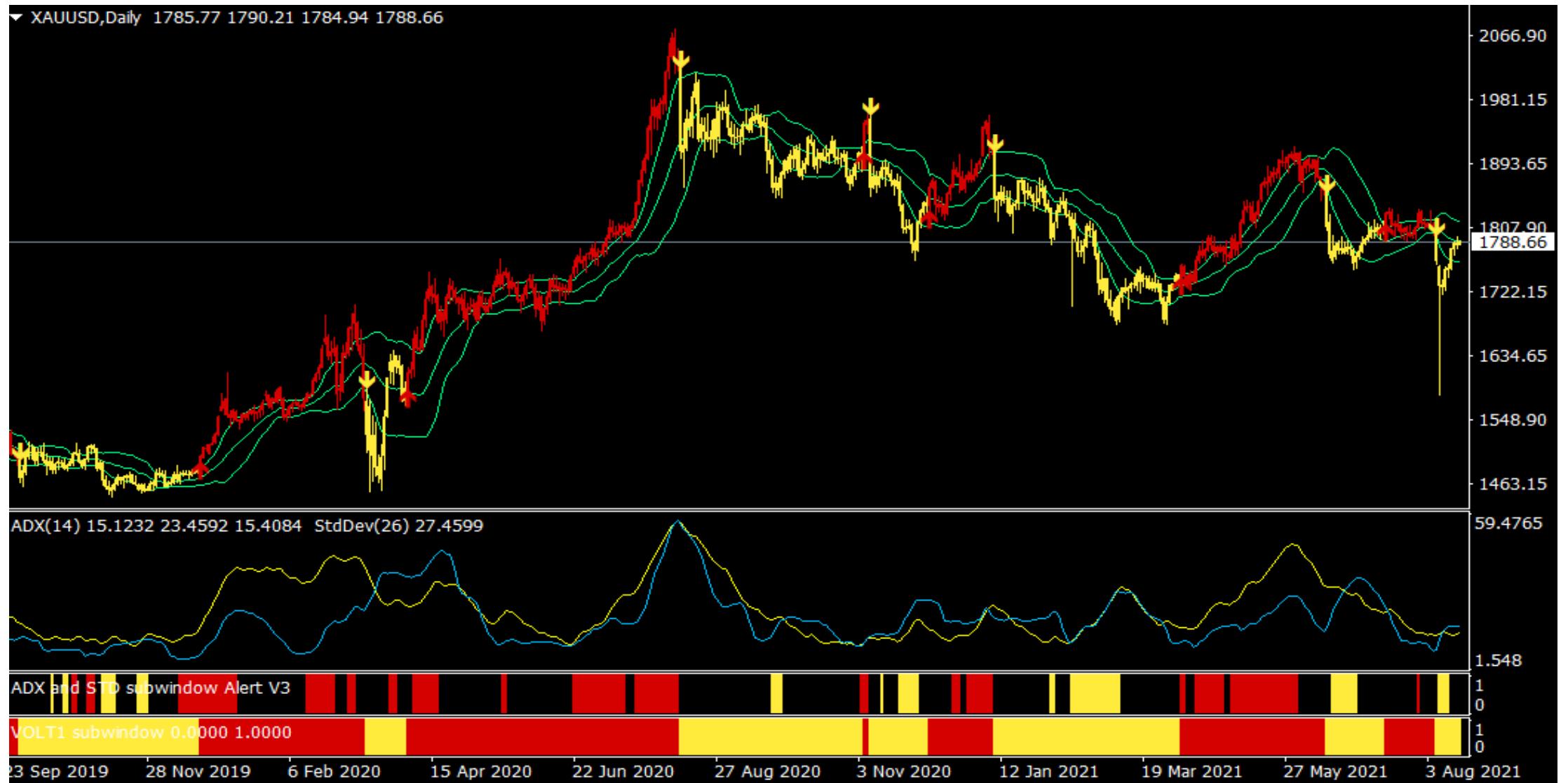
出所：「A Global Liquidity Crisis Is Underway（進行する世界的な流動性危機）」ジェームス・リッカーズ

# 実質金利とゴールド価格



出所：マーク・ファーバー博士の月刊マーケットレポート（パンローリング）

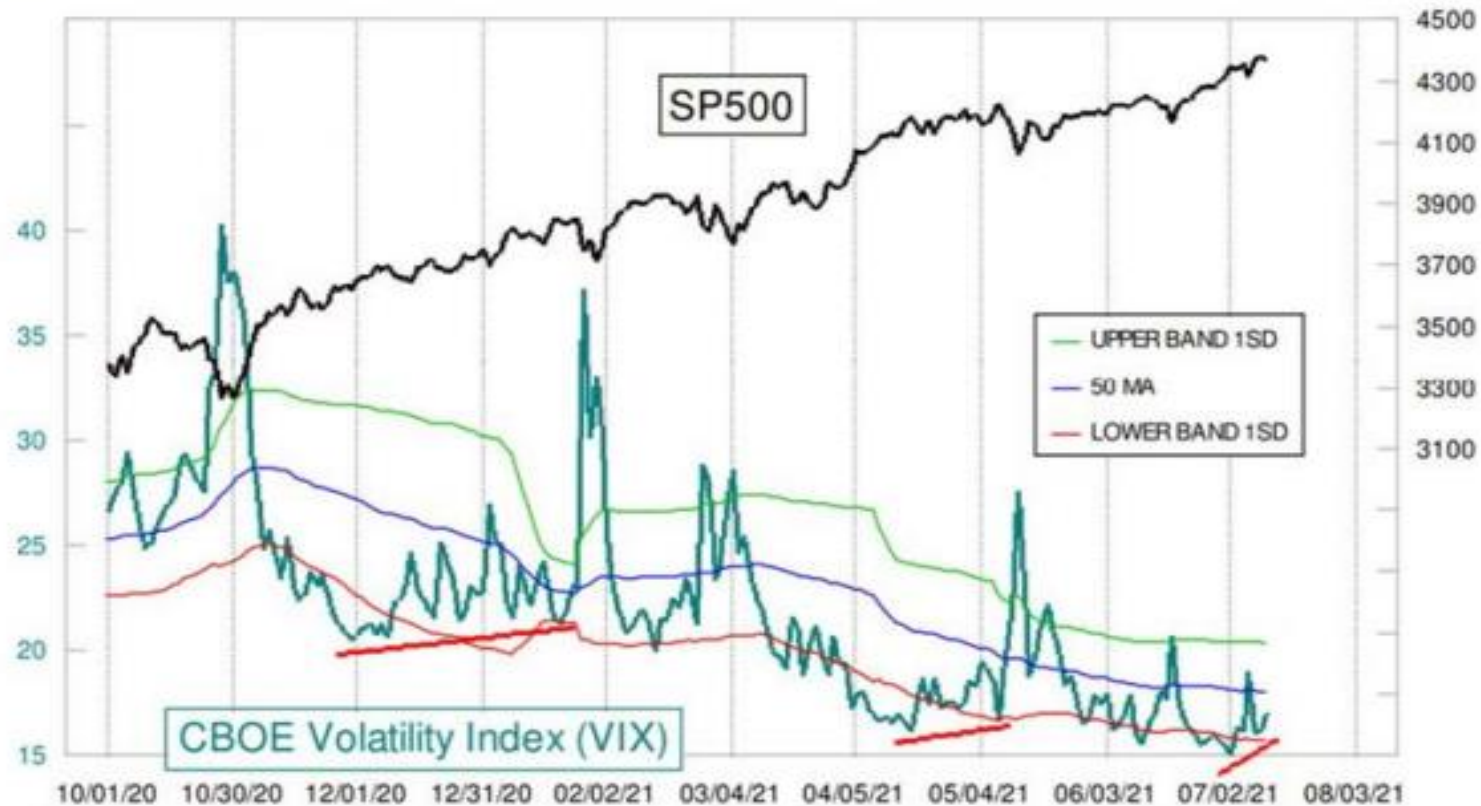
# ゴールドCFD (日足)



(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル) 出所：楽天MT4・石原順インディケーター

# S&P500とVIX指数

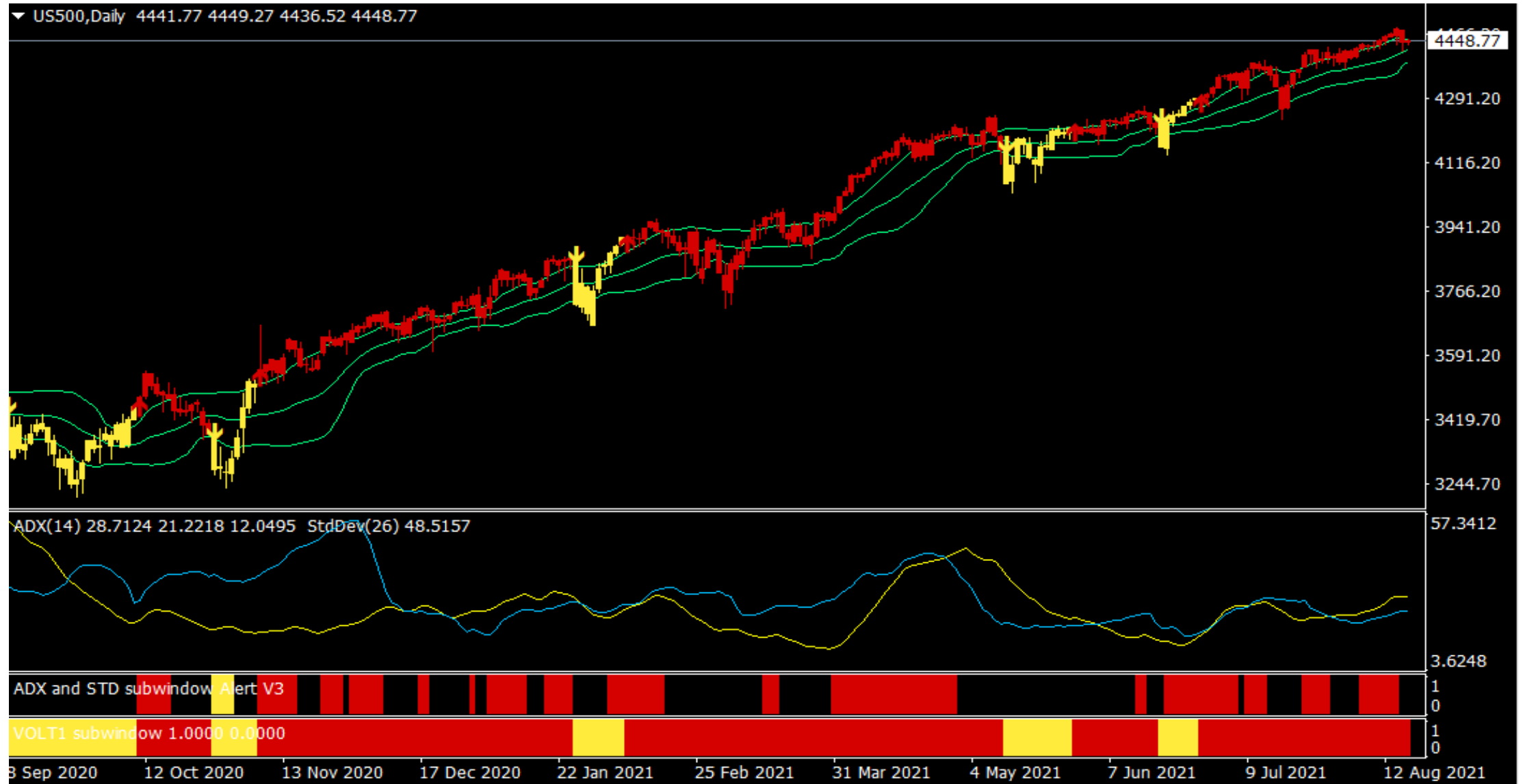
図 19 S&P500 と VIX (2020/10—21/7)



出所：Tom McClellan, [www.mcoscillator.com](http://www.mcoscillator.com)

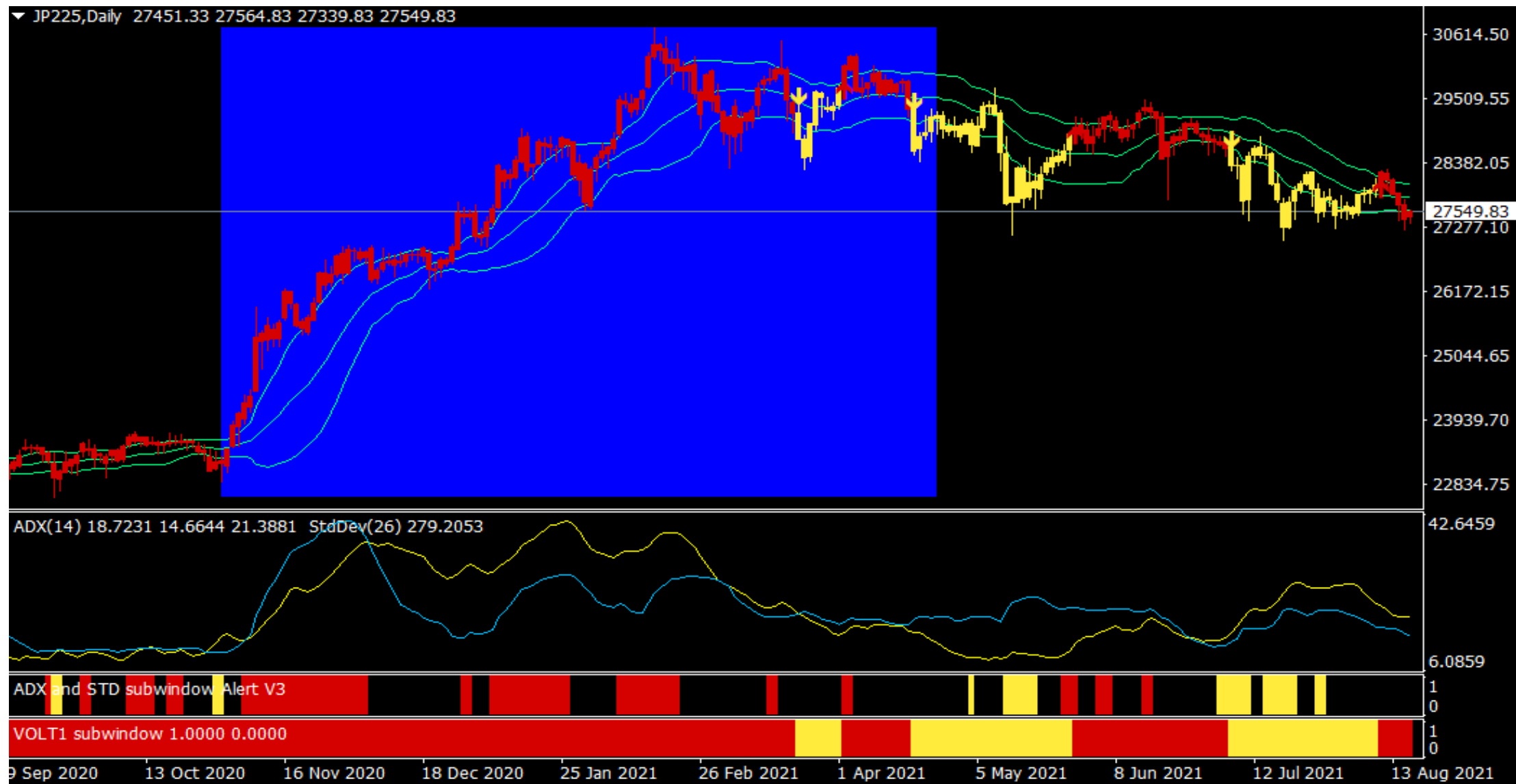
ボラティリティー・インデックスと S&P500 指数を比較することで、このような「不安定」な時期を可視化することができる。定期的な(長い間)「安定」の期間が長く続くと、「不安定」の期間が発生することに注意すべきだ。

# S&P500CFD (日足)



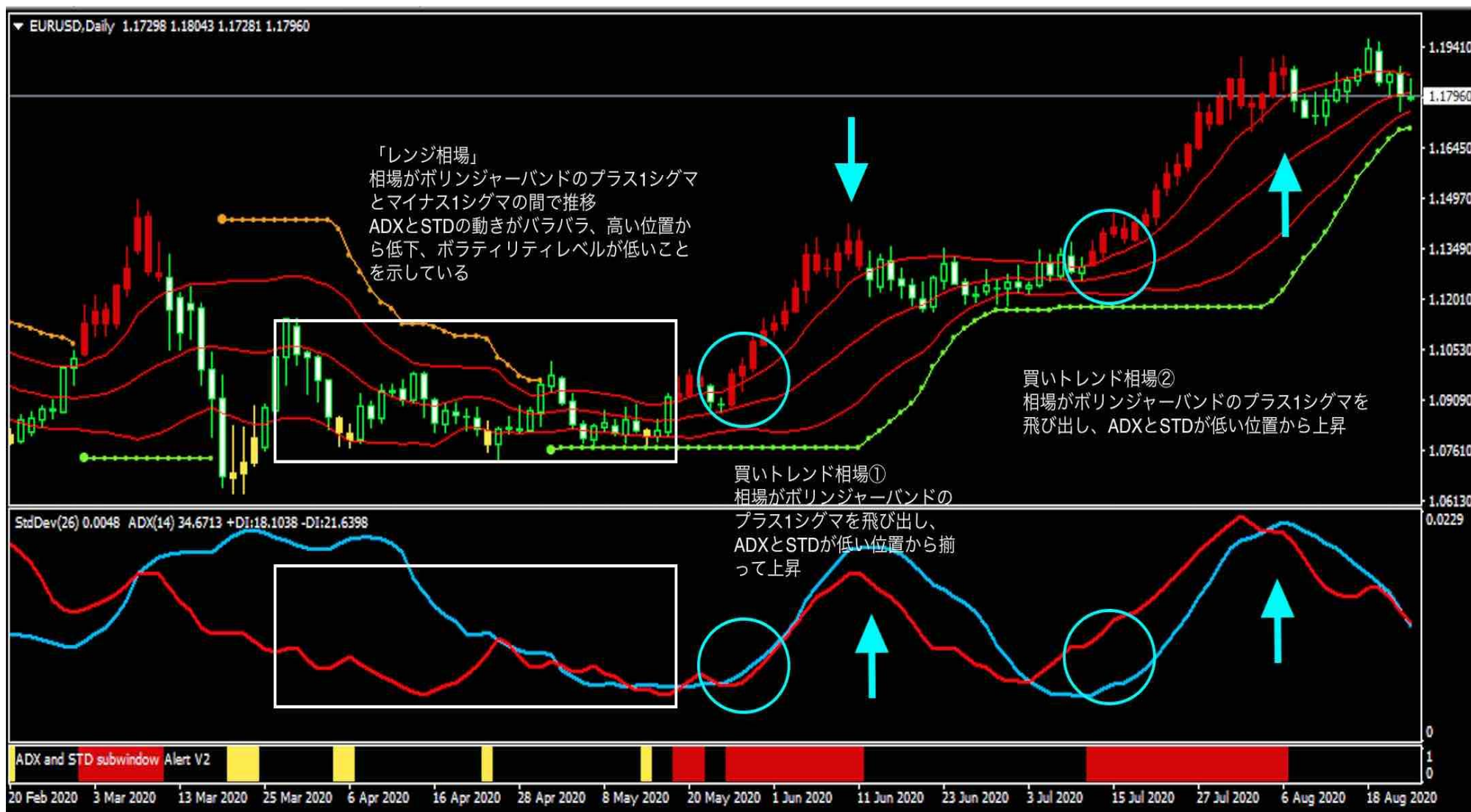
(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル) 出所：楽天MT4・石原順インディケーター

# 日経平均CFD (日足)



(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル) 出所：楽天MT4・石原順インディケーター

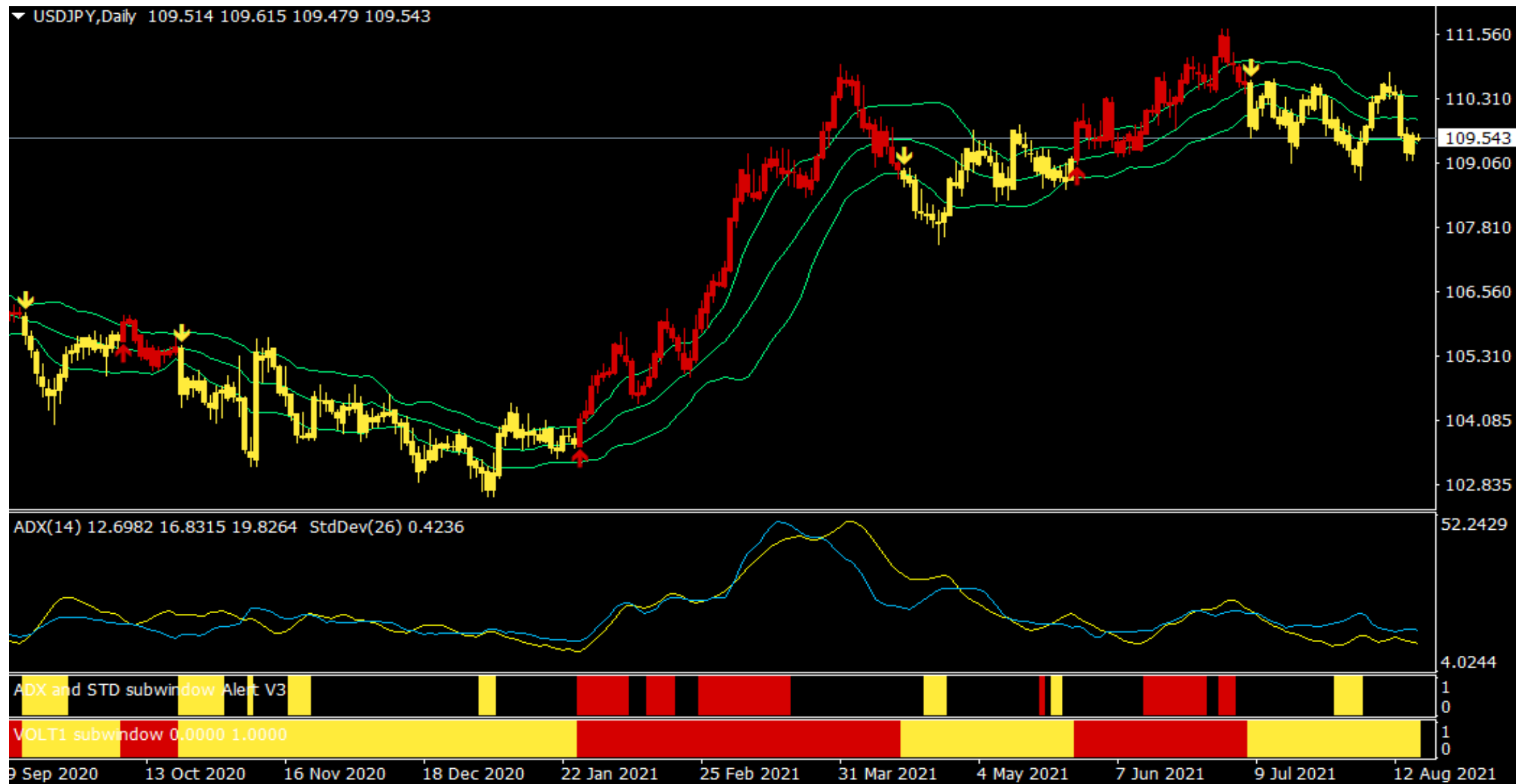
# 標準偏差ボラティリティトレードの基本形 ユーロドル（日足）



(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル) 出所：楽天MT4・石原順インディケーター

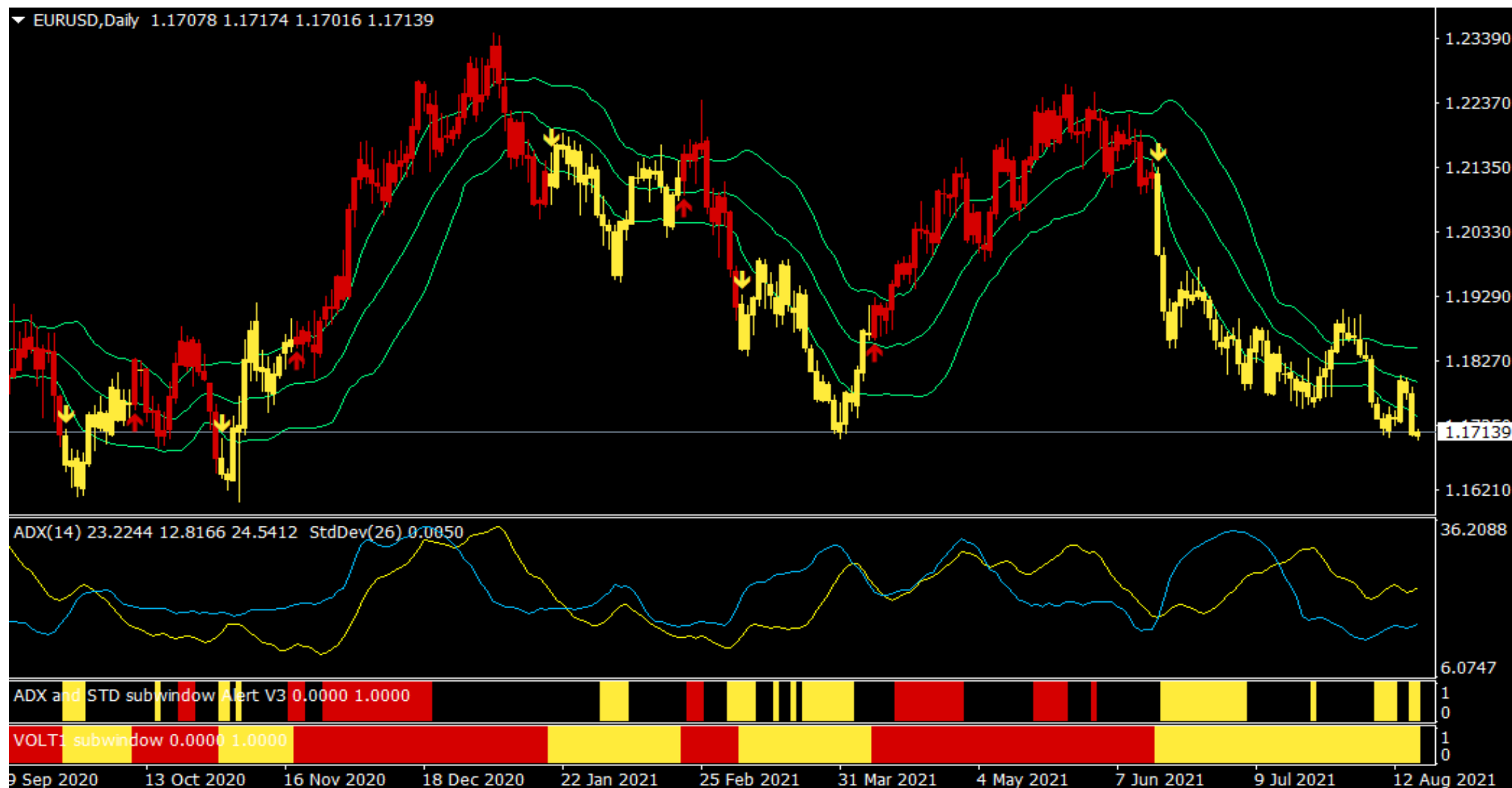


# ドル/円 (日足)



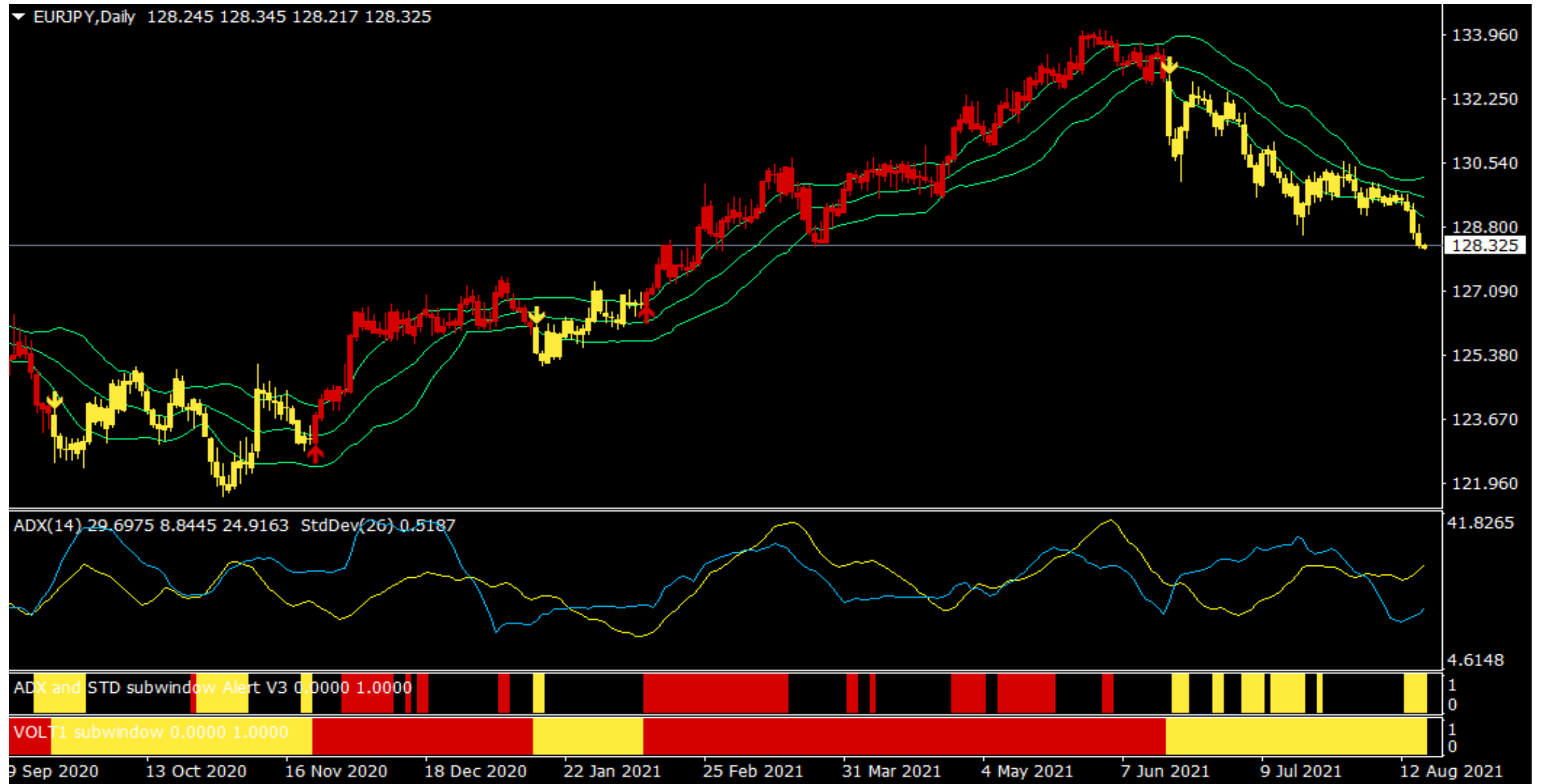
(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル) 出所：楽天MT4・石原順インディケーター

# ユーロ/ドル (日足)



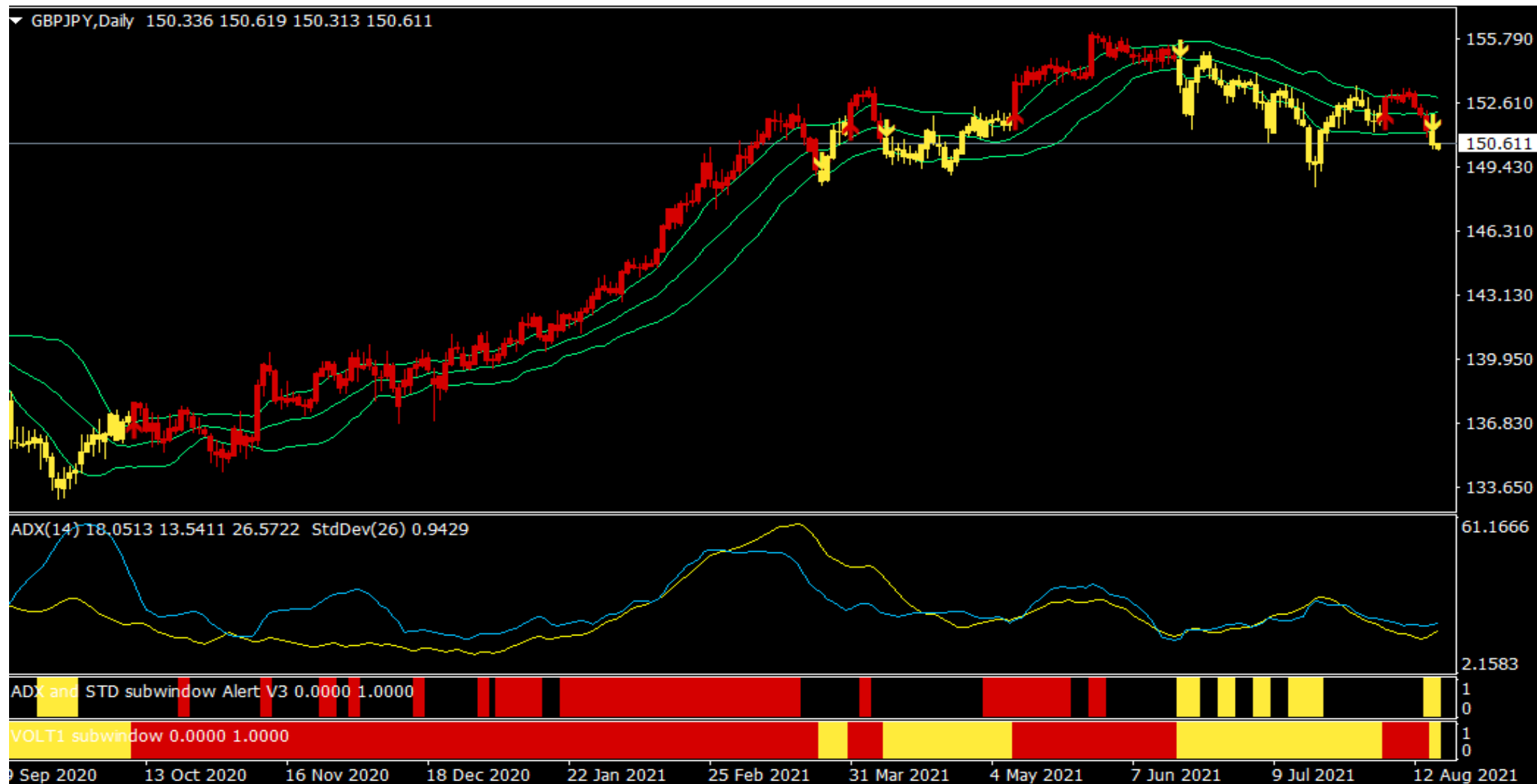
(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル) 出所：楽天MT4・石原順インディケーター

# ユーロ/円 (日足)



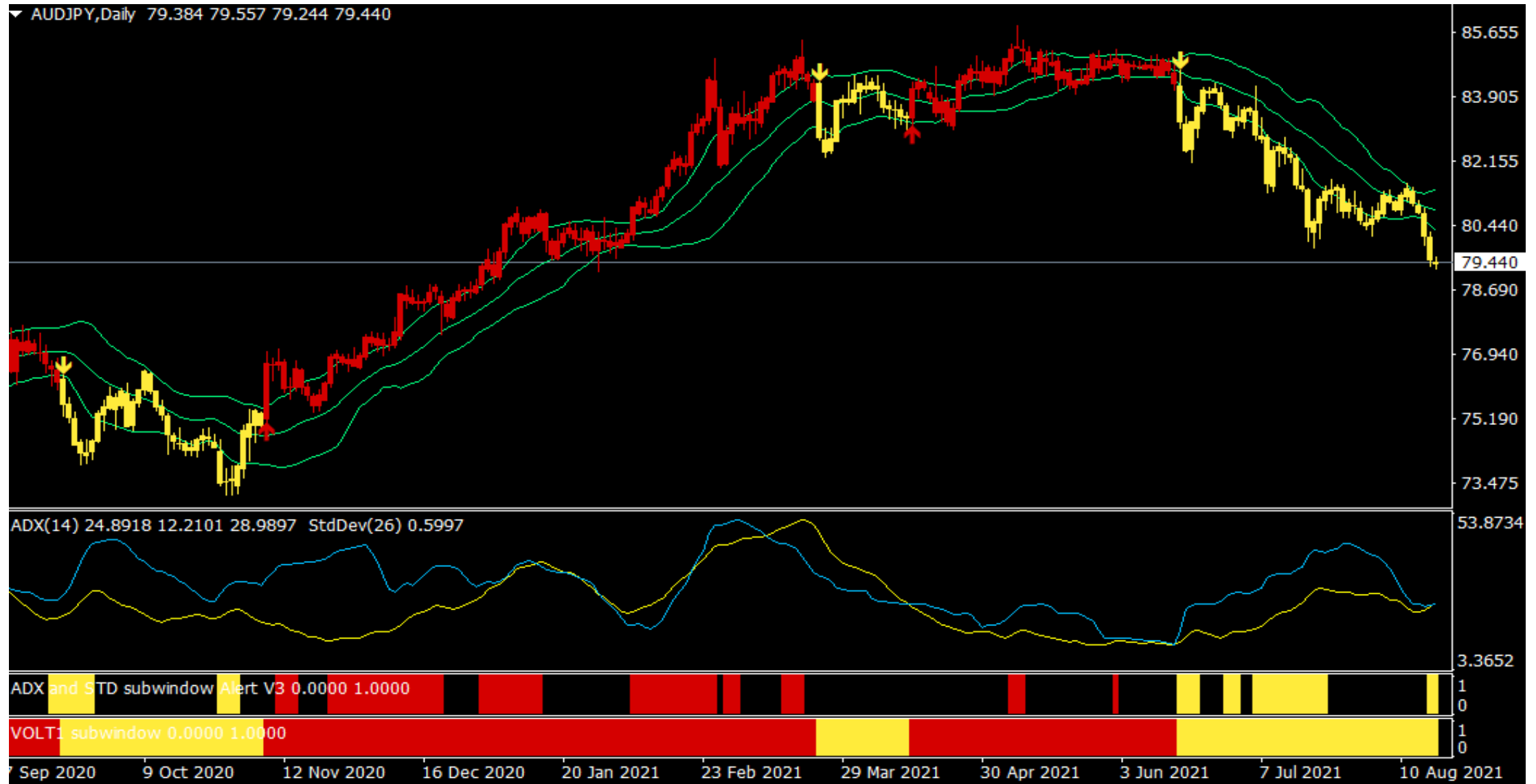
(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル) 出所：楽天MT4・石原順インディケーター

# ポンド/円 (日足)



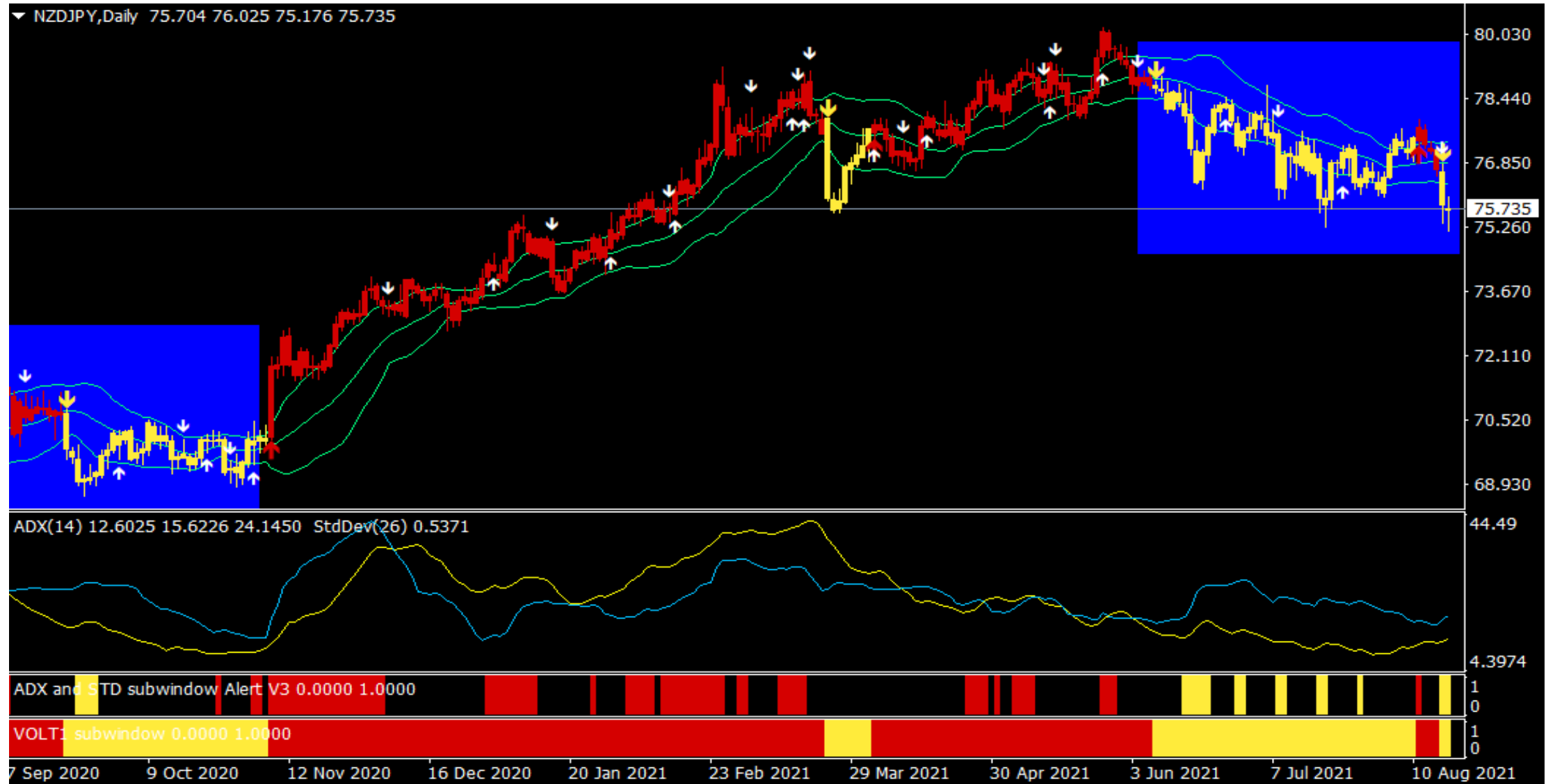
(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル) 出所：楽天MT4・石原順インディケーター

# 豪ドル/円 (日足)



(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル) 出所：楽天MT4・石原順インディケーター

# NZドル/円 (日足)



(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル) 出所：楽天MT4・石原順インディケーター